

鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(平成28年度報告)

1 被害防止計画の特徴等
 イノシシ、アライグマ・ハウビシン、サル、カワウ、カラス、シカを対象としており、侵入防止柵の設置や放任果樹の伐採等の環境管理の取組を実施する。
 また、捕獲については、平成27年度に設置した被害防止対策実施隊による有害鳥獣捕獲を積極的に行っていくことになっている。

2 事業効果の発現状況
 協議会を中心に関係機関と地元農業者等が連携して被害対策への取り組みが進められている。狩猟免許の取得も進んでおり、侵入防止柵の設置とこれを活用した捕獲も始まっている。

3 被害防止計画の目標達成状況
 個別の項目では未達となったものもあるが、全体では目標を達成できた。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (構成市町名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見			
										被害金額(万円)				被害面積(a)								
										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率					
高松市	高松市全域	平成27年度	ニホンジカ	緊急捕獲活動支援事業	—	—	—	—	イノシシの出没件数はH28年度は257件で、H26年度の110件に比べ倍増しており、捕獲頭数も年々増加している。侵入防止柵整備事業の効果も合わせて、農作物被害は減少傾向にあるが依然高止まりが続いている。ニホンジカ、ニホンザルは、出没件数も少ないが、個体数を管理し、農作物被害を防止する必要があることから、継続して捕獲をしている。	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	イノシシについては侵入防止柵の設置や捕獲等により被害は減少しているため、一定の成果が見られ、目標を達成できている。 サルについては大きな変化は見られず、今後も継続して捕獲を進める。 アライグマ・ハウビシンについては、捕獲従事者を養成し、捕獲を進めているが、捕獲頭数が伸び悩み、結果被害防止計画の目標達成には至っていない。 カワウは奈良須池の駆除は羽数が減少し、成果を挙げたが、他の池の生息数は増加し、被害額も増加している。コロニーのほとんどが周辺に住宅地があり、銃による駆除ができない状況である。 カラスは有害捕獲による成果が出ているものと思われる。	イノシシ、カラスについては、被害低減が図られており、引き続き対策を継続して欲しい。 一方、アライグマ・ハウビシン、サル、カワウについては被害が拡大していることから捕獲に加え、環境管理及び侵入防止にも取り組み、総合的な対策の推進により被害低減に努めてほしい。			
		平成27年度(補正)			—					—	—	—	—	—	—	—	—			—	—	
		平成28年度			—					—	—	—	—	—	—	—	—			—	—	—
		平成28年度(補正)			2頭					—	—	—	—	—	—	—	—			—	—	—
		平成27年度	イノシシ		228頭					3,354.0	2,347.0	1,565.0	177.7%	2,517.0	1,761.0	1,415.0	145.8%					
		平成27年度(補正)			397頭					—	—	—	—	—	—	—	—					
		平成28年度			408頭					—	—	—	—	—	—	—	—					
		平成28年度(補正)			610頭					—	—	—	—	—	—	—	—					
		平成27年度	ニホンザル		5頭					0	42	5	11.9%	0	10	3	30.0%					
		平成27年度(補正)			—					—	—	—	—	—	—	—	—					
		平成28年度			—					—	—	—	—	—	—	—	—					
		平成28年度(補正)			1頭					—	—	—	—	—	—	—	—					
		—	アライグマ・ハウビシン		—					170	170	400	—	45	45	131	—					
		—	カワウ		—					3336	2314	4417	0.0%	—	—	—	—					
		—	カラス		—					501	350	377	82.1%	201	140	143	95.1%					
—			7,361.0	5,223.0	6,764.0	27.9%	2,763.0	1,956.0	1,692.0	132.7%												